

立教大学校友会報

http://www.rikkyo.ac.jp/koyu/

# 立教学院 創立135周年

## —写真で見る立教135年の歴史—

▼1882年 築地居留地37番の「立教大学校」[三一神学校]共同校舎(日本聖公会東京教区・立教学院史資料センター提供)



▼1894年 築地川を隔てて見た立教のキャンパス(新座図書館所蔵 The Spirit of Missions, Vol.63, No.3より)



▼1918年 正面からみた大学建築群(立教学院史資料センター提供)



▲1923年 震災直後の塔(立教学院史資料センター提供)

歴史を重ねた現在のモリス館▶



◀整備された新座キャンパス

見かけによらず(う)記念日や〇周年といった節目にこだわらうだが、今年は何があったかと考えてみた。自身が40歳になる、長男が10歳になる……ほかに気づいた。「上京20周年」すなわち立教大学入学から20年だ。▼ちょうど時代が昭和から平成に替わった平成元年春、1年の浪人生活を終えて新潟県の片田舎から上京した私を待っていたのは、自分とは不釣り合いに思えた都会的なキャンパスと、床が抜け雨漏りする学生寮だった。学生寮は出身地の育英会が運営しており、今はさすがに改装されたらしいが当時は木造2階建て、築90年と聞いた。場所は文京区の一等地。丸ノ内線の後楽園駅から池袋まで通った。▼2年になると、卒業する先輩が住んでいたアパートに移った。冷蔵庫やテレビ、電話の加入権など一式だけだったのも魅力だった。こちらは椎名町と東長崎の間。さらに大学が近くなった。そのため一週間入れ代わり立ち代わり友人や先輩が泊まっていたこともあったし、当時でも珍しい家賃2万5千円の風呂なしアパートだったが、それなりに快適だった。▼卒業と同時に、結局東京で就職。ちよと池袋にも飽きたな、と京王線沿線に住んでみたりもしたが、気がつけば引越すたびに池袋に近づいていた。今は埼玉県に所帯を構えたが、これもまた新座キャンパスのすぐ近く。立教との縁を感じる。▼20年間で立教の学部数も倍になり、キャンパスや池袋の街も様変わりしたが、本館の時計台は今も変わらず学生たちを見守っている。

(宮澤 静也 平5教)



# セントポール ST. PAUL'S ALUMNI



■発行所  
立教大学校友会  
〒171-8501  
豊島区西池袋3-34-1  
■電話 03(3985)2634  
■発行人 江草 忠敬  
■編集人 石崎 孟

### 主なニュース

- 8面▶ 地域立教会を訪ねて 第14回「京都立教会」
- 5面▶ 定期代議員会 開催される
- 3面▶ 創立135周年事業



時計台